

Technical Report Documentation Page

1. Report No. UMTRI-2015-27		2. Government Accession No.		3. Recipient's Catalog No.	
4. Title and Subtitle 米国の車社会はピークに達したのか？ Part 8: 2004 年と 2014 年の移動時間				5. Report Date September 2015	
				6. Performing Organization Code 383818	
7. Author(s) Michael Sivak				8. Performing Organization Report No. UMTRI-2015-27	
9. Performing Organization Name and Address The University of Michigan Transportation Research Institute 2901 Baxter Road Ann Arbor, Michigan 48109-2150 U.S.A.				10. Work Unit no. (TRAIS)	
				11. Contract or Grant No.	
12. Sponsoring Agency Name and Address The University of Michigan Sustainable Worldwide Transportation				13. Type of Report and Period Covered	
				14. Sponsoring Agency Code	
15. Supplementary Notes Information about Sustainable Worldwide Transportation is available at http://www.umich.edu/~umtriswt .					
16. Abstract 過去の研究において、アメリカ合衆国における一人当りの移動距離は 2004 年にピークに達し、そして、2013 年までにおよそ 9%減少したことを示した。 この研究では、2004 年から 2014 年までの移動時間の変化を調査した。 アメリカ人が費やす時間の代表的な全国的な調査 the American Time Use Survey (ATUS)のデータを用いる。(どのように、何処で、そして誰と) ATUS データの意味のある部分は、移動と関連した異なる活動の種類項目であった。 ATUS の移動データには、運転だけではなくすべての移動手段が含まれている。 主要な発見は以下である。： <ul style="list-style-type: none"> ・全ての活動における、平均移動時間の合計は、2004 年から 2014 年で約 10% 減少した。 ・いろいろな活動に関連した人々の移動は減少傾向にある。 ・しかしながら、活動に関連して移動した人にとって、いろいろな活動をするのに要する平均移動時間の合計は変わらなかった。 これらの結果は主に、2004 年から 2014 年で一人あたりの総移動時間が実質的に減少していることを意味している。この減少は、移動時間の全体的な減少ではなく、移動に関係している人の割合の減少に起因している。					
17. Key Words 移動、移動時間、車社会、モータリゼーション、傾向				18. Distribution Statement Unlimited	
19. Security Classification (of this report) None		20. Security Classification (of this page) None		21. No. of Pages 9	22. Price